

豆腐の甘み・こくがアップ！大豆の品種「リュウホウ」

【1 「リュウホウ」はこんな品種】

(1)品種の履歴

ア 東北農業試験場（現東北農業研究センター）において、昭和58年に人工交配を行い、以後選抜・固定を図り育成され、平成7年に登録された品種です。

イ 命名の由来は、粒が豊満であたかも竜の宝のように高品質な大豆が、竜のように勢い良く作付けが拡大するよう期待したもので、現在までに秋田県・山形県の奨励品種に採用されています。



図 「リュウホウ」の命名イメージ

(2)本県で栽培した場合の特徴

ア 県内の主力品種のひとつである「スズカリ」と比較して、成熟期は並～3日程度早いです。

イ 倒伏が「スズカリ」よりやや多いので、栽培する際には気をつけましょう。

ウ 収量は「スズカリ」並～やや少ないですが、百粒重は「スズカリ」並～やや重いです。

エ 成分含有率は、全糖がやや高い（粗蛋白質・粗脂肪は概ね「スズカリ」並）です。

オ **豆腐にすると甘み・こくがある**といった特徴があり、県内実需者による**加工適性評価でも、総合的に「スズカリ」と同等～優るとの評価**を得ています。

表1 岩手県農業研究センター（北上市）における栽培特性の評価

品種	年次 (年)	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	倒伏	収量 (kg/a)	同左比 (%)	百粒重 (g)	外観 品質	粗蛋白質 (%)	粗脂肪 (%)	全糖 (%)	概評
リュウホウ	H14	7.31	10.11	54	少	33.3	89	34.8	中上	-	-	-	-
	H15	8.5	10.17	57	微	28.2	92	32.5	中上	-	-	-	-
	H16*	7.27	10.10	50	少	25.2	75	28.8	中下	39.8	21.2	23.1	-
	H17	8.1	10.10	65	中	35.7	100	31.2	中中	41.7	20.3	22.7	-
	平均	8.1	10.12	57	少	30.6	89	31.8	中中	40.8	20.8	22.9	-
スズカリ	H14	7.30	10.13	57	少	37.5	(100)	34.5	中上	-	-	-	-
	H15	8.5	10.20	59	微	30.6	(100)	33.0	中上	-	-	-	-
	H16	7.28	10.13	73	少	33.6	(100)	29.7	中下	41.5	20.3	21.6	-
	H17	7.31	10.10	58	少	35.8	(100)	28.1	中上	41.4	20.5	21.7	-
	平均	7.31	10.14	62	少	34.4	(100)	31.3	中中	41.5	20.4	21.7	-
ナンブシロメ	平均	7.29	10.15	64	少	30.2	88	25.1	中上	41.6	19.9	22.9	-

注)概評: 有望、やや有望、再検討(標準品種並)、やや劣る、×劣る

*リュウホウの平成16年のデータは試験区の位置による湿害の影響を含んでいる(平均値にも影響)

表2 岩手県工業技術センターによる加工適性の評価（平成16年産）

品種	豆乳濃度	充填豆腐 硬さ	充填豆腐官能検査			適性凝固剤濃度範囲	総合評価
	Brix		甘み・こく	渋み・えぐみ	色調	MgCl(mM)	
リュウホウ	14.4	++	++	-	淡黄	7.0～12.5	
スズカリ	14.5	++	+	+	淡黄	8.0～14.0	
ナンブシロメ	15.1	++	+	++	淡黄	7.5～13.5	

注)「硬さ」+++：変形しない、++：わずかに変形、+：大きく変形するが崩壊しない、-：自重で崩壊する

「甘み・こく」「渋み・えぐみ」+++：強い、++：標準、-：弱い 「総合評価」・・・×の4段階評価

【2 「リュウホウ」を使える場面】

(1)県内実需者との契約栽培や地場加工向け栽培

既存品種の一部を「リュウホウ」に置き換えることにより、豆腐の品質改善を図ることができ、安定的な需要の確保による持続的な大豆生産が期待されます。

(2)留意事項

ア 県内における栽培法については、別の研究レポート等を参照してください。

イ 適用地帯は県央部及び県南部（盛岡以南）です（県北部では「スズカリ」より収量がかかなり少ないので、導入は控えてください）。